

品番 TS-16

品番 EB-16

品番 SK-16



※説明書に掲載している製品イメージは全てEB-16になっています。TS-16またはSK-16ご購入の方は、EB-16と同じ構造・パーツ名称のためそのままお読みください。

※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

お願い

●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

●商品到着後、取扱説明書のP.29ページ「購入情報MEMO」に購入情報・車体番号などご記入ください。

不具合や盗難にあった場合など、万が一に備えての大切な情報になります。

※車体番号は販売店・製造メーカーで管理・保管していませんので必ずお客様にて控えをとってください。

●ご使用前に、取扱説明書に従い正しく組立てをおこなってください。ご不明点は販売店にお問合せください。

●お届け時は、タイヤとチューブの保護・傷み防止のため、空気が少なくなっている場合があります。必ず適性な空気を入れてからお乗りください。

●お子さまがご使用の場合、大人の方が取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗り方をご指導ください。

●この自転車は、近隣走行を目的とした日常生活用として設計されています。競技用・業務用としてご使用にならないでください。

●安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。

●傷害保険と賠償責任保険が付帯されたTSマークの加入をお勧めします。自転車安全整備店(TSマーク取扱店)で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認したうえで貼ることが出来ます。(有料)

●防犯登録の申請手続きを行ってください。(法令で義務付けられています。)(有料)

●この自転車に幼児用座席を取付けることはできません。

配送ダンボール保存のお願い

お届け時のダンボール箱は、初期不良対応などの返送時に備えて、最低一週間は捨てないでください。

ダンボールを捨ててしまった場合は、初期不良の場合でも配送用ダンボールは有料となります。(ダンボール代金3,000円)

※現在宅配業者は、梱包されていない自転車は配送してもらえませんので、お守りいただけますようお願いいたします。

目次

乗るまえに _____

- 安全上のご注意 2
- 各部のなまえ 8
- 乗る前の準備 組立手順 10
- 乗る前の点検 14
- 乗る前の調整 16

本体折りたたみ _____

- 折りたたみ手順 20

必要なとき _____

- お手入れ／注油について 21
- 定期点検 23
- 防犯登録について 24
- こんな時は 25
- LEDライトの取付け 26
(サービス付属品のため仕様が異なる場合があります)
- ワイヤーロック錠について 27
(サービス付属品のため仕様が異なる場合があります)
- 折りたたみカゴについて 28
(サービス付属品のため仕様が異なる場合があります)
- 購入情報MEMO 29

安全上のご注意 (1)

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



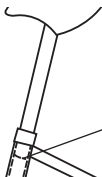
気をつけていただく内容です。

けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために次のことを守りましょう！



警告

■ サドル高さは、引き上げ限界線が見える状態では乗らない



シートポストが折れたり、段差に引っ掛けて転倒によるけがのおそれがあります。

■ 改造や分解、また指定以外の注油はしない



分解禁止



部品の破損や、ブレーキが効かなくなると、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ 網棚には載せない



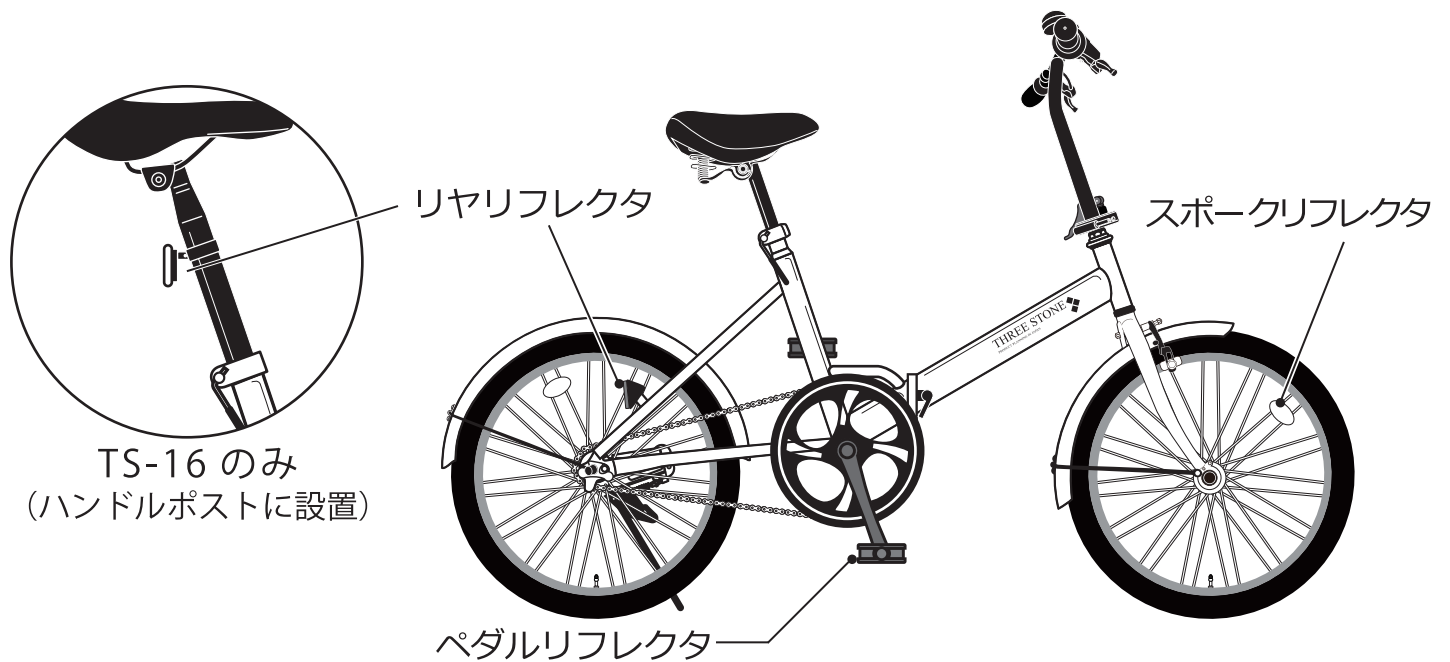
落下しやすく、事故発生によるけがのおそれがあります。

● 他の人に迷惑がかからないように車内の隅や足下に置いてください。

公共の交通機関(列車、バス、地下鉄等)を利用される場合のお願い

- ① 交通機関の係員の指示に従ってください。
- ② 他のお客様のじゃまにならないように気をつけてください。
- ③ できるだけ安定した床面においてください。
落下すると事故の原因になるので、網棚には載せないでください。

安全上のご注意（2）



掲載中の画像は全て製品 EB-16 を使用しています。TS-16・SK-16 も同等のパーツ名称・構造です。

警告

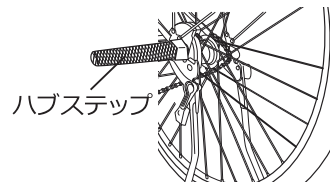
■安全装置は取り外さない



外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれがあります。



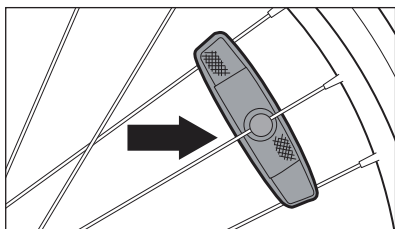
■ハブステップなどの突出物を装着しない



歩行者などに、危害をおよぼすおそれがあります。

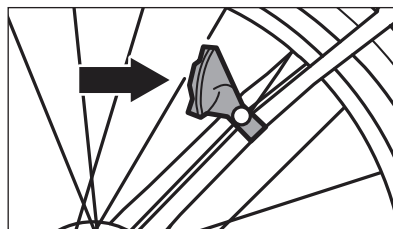
■安全装置

スポークリフレクタ



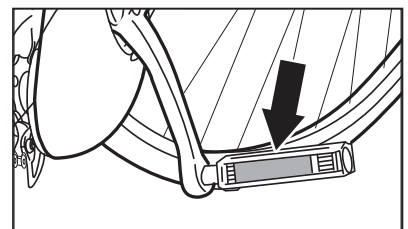
横からの光を反射します

リヤリフレクタ（後部反射器）



後からの光を反射します

ペダルリフレクタ



前後からの光を反射します

※リフレクタが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(リヤリフレクタが破損したままでの夜間乗車は法令違反になります。)

安全上のご注意（3）

■ 乗るまえに

まず体に合わせてください

- 図のように販売店で調整してもらってください。
- 操作して確認してください。
 - ① 円滑なペダリングができる。
 - ② ブレーキが確実に操作できる。
 - ③ ハンドル操作が容易にできる。



ペダルはつま先で踏む つま先が地面に着くように

必ず点検をしてください

- 必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
- わからないときは販売店に相談してください。
- 未組立及び未調整の自転車は使用しないでください。



安全な服装で乗ってください

（車輪に巻き込まれやすい服装はしない）

- ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っかかり等を防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
- 児童（13歳未満の者）・幼児の保護者は、お子様が乗車するとき、かならずヘルメットをかぶらせてください。



乗る練習は必ず行ってください

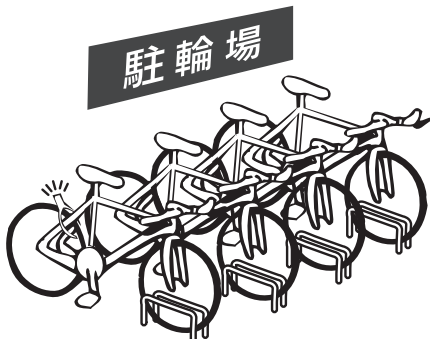
- 練習を空地や公園など安全な場所で、行ってください。
- よく練習してから一般道路でお乗りください。



■ 乗ったあとは

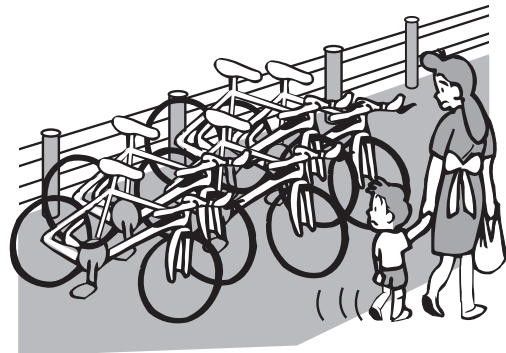
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、他の人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
- 盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。



自転車放置禁止

- 自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。



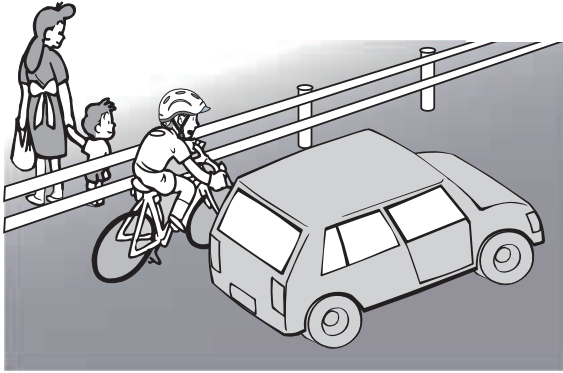
安全上のご注意（４）

■自転車の交通安全ルールを守りましょう

※違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

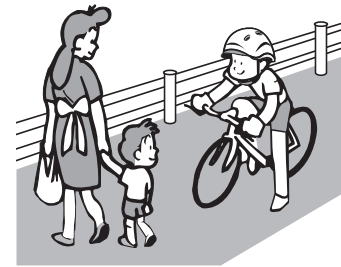
自転車は、車道通行が原則です

- 歩道と車道の区別のあるところは自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。



次の様な場合は、歩道通行ができます
(その時にも歩道は歩行者優先、車道よりを徐行)

- 自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
- 車道や交通の状況からみてやむを得ない場合。



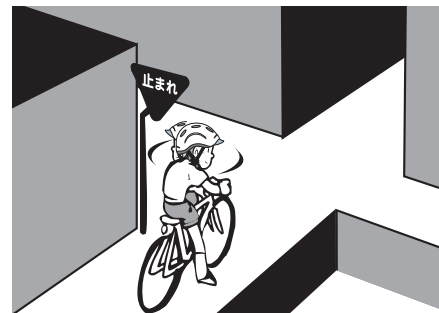
二人乗り、並進、飲酒運転は禁止

- 二人乗りは禁止です。
- 「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。
- 飲酒運転は禁止です。



交差点では一時停止と安全確認を

- 一時停止の標識を守り、広い道に出る時は、徐行と安全確認を。
- 信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。



夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行しましょう

- 夜の無灯火運転は交通違反です。
- 暗いところではライトを点けて通行しましょう。



次の様な運転はしない

- ヘッドフォンを使用しながらの運転。
- 傘さし運転。
- 携帯電話を操作しながらの運転。



安全上のご注意（5） 必ずお守りください

■ 自転車の交通安全ルールを守りましょう

道路を走るときに必要なルールです。まず、これだけ覚えておきましょう。

- | | |
|---|--|
| ● 見通しの悪い交差点や、狭い道から広い道にでるとき
一時停止して左右の安全を確認してください。 | ● 交差点では左に曲がる車に注意
左に曲がる車のすぐ横は、巻き込まれるおそれがありますので十分に注意してください。 |
| ● 子供の飛び出しに注意
公園や学校のあるところでは子供の飛び出しに十分に注意してください。 | ● 車道を走行するとき
車道の左側を必ず一列で走行してください。 |
| ● 視界の悪いとき
必ずLEDライトをつけてください。
LEDライトは早めにつけましょう。 | ● 歩道を通行できる場所では
歩行者優先で、車道寄りを徐行してください。 |
| ● 停止するとき
右腕を斜め下に出して停止してください。 | ● 車のすぐ横を走るとき
急にドアが開いたり、車の陰から人が出てきたりすることがありますので十分に注意してください。 |
| ● 左折するとき
右腕のひじを直角にあげ、速度を落として曲がってください。 | ● 車のすぐ後ろを走るとき
前方が見えにくかったり、車が急に止まったり、曲がったりすることがありますので十分に注意してください。
安全な距離を保ってください。 |
| ● 信号機のない交差点で右折するとき
右腕を水平にし、手のひらを下にして、向こう側まで進んでから右折してください。 | ● 踏切では
一時停止して左右の安全を確認してください。 |

道路標識を守りましょう

また地域の条例や法律にしたがい、安全な運転を心がけるようにしましょう。



自転車運転者講習制度について

講習の対象となる危険行為とは・・・
信号無視・一時不停止・酒酔い運転・ブレーキ不良運転など・・・



- 自転車運転中危険なルール違反をくり返すと ⇒ 自転車運転者講習を受けることになります。
 - 信号無視や一時停止など14項目の運転行為をして3年以内に2回以上摘発された自転車運転者は、公安委員会の命令を受けてから3ヶ月以内の指定された期間内に講習を受けなければ5万円以下の罰金が課せられます。
- ① 信号無視
 - ② 「歩行者道路」など自転車の運行が禁止されている場所を通行すること
 - ③ 自転車の通行が認められている歩行者道路を通行する際に歩行者に注意を払わなかったり徐行しなかったりすること
 - ④ 歩道を通行したり、車道の右側を通行すること
 - ⑤ 路側帯で歩行者の通行を妨げるような速度と方法で通行すること
 - ⑥ 遮断機が閉じていたり、閉じようとしていたり、または警報機が鳴っている時に踏切に立ち入ること
 - ⑦ 交差点で、通行する車両の安全な進行を妨げること
 - ⑧ 信号の無い交差点で左から来る車両の通行を妨害すること
 - ⑨ 環状交差点の通行を妨害したり、徐行をしないことなど
 - ⑩ 一時停止標識などを無視して交差点に進入したりすることなど
 - ⑪ 歩道の車道よりの部分などを徐行しなかったり歩行者の通行を妨害しそうなのに一時停止しないなど
 - ⑫ ブレーキがなかったりブレーキ性能が不良の自転車で走行すること
 - ⑬ 酒酔い運転
 - ⑭ ハンドルやブレーキなどを確実に操作せず、また、他人に危害を及ぼすような速度や方法で運転すること（傘さし、スマホ運転も含まれます）

安全上のご注意（6）

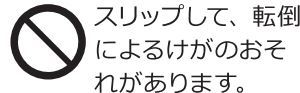
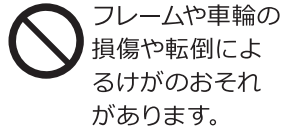
必ずお守りください

■転倒事故を防ぐために







こんな時

<p>■雨・風・雪のひどいときは乗らない</p>  <p>バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。</p>	<p>■合図以外は、ハンドルから手を離さない</p>  <p>バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。</p>
---	--



こんな場所

<p>■滑りやすいところでは乗らない (積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど)</p>  <p>スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。</p> <p>●降りて、押して歩いてください。</p>	<p>■凹凸の激しいところを走らない (歩道の段差や、溝など)</p>  <p>フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。</p> <p>●降りて、押して歩いてください。</p>
--	---

こんな乗り方

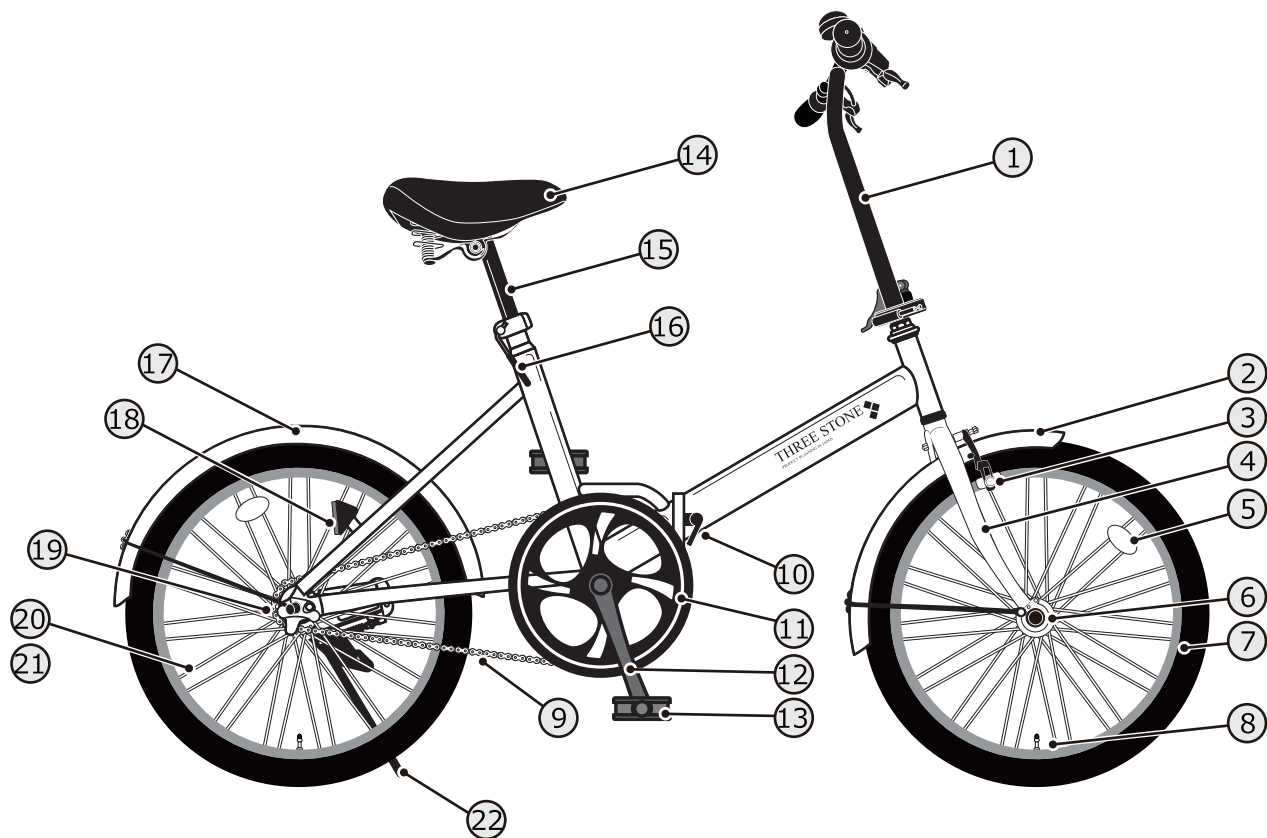
<p>■巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)</p>  <p>車輪やギヤに巻き込まれ、転倒によるけがのおそれがあります。</p>	<p>■かさやステッキ、釣りざお等を車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない</p>  <p>車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。</p>	<p>■土踏まずやかかとでペダルを踏まない</p>  <p>カーブでつま先が前車輪にあたり転倒によるけがのおそれがあります。</p>
<p>■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない</p>  <p>ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。</p>	<p>■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない</p>  <p>荷物やひもが、車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。</p>	<p>■カーブで曲がる側のペダルを下げない</p>  <p>ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。</p>

こんな使い方

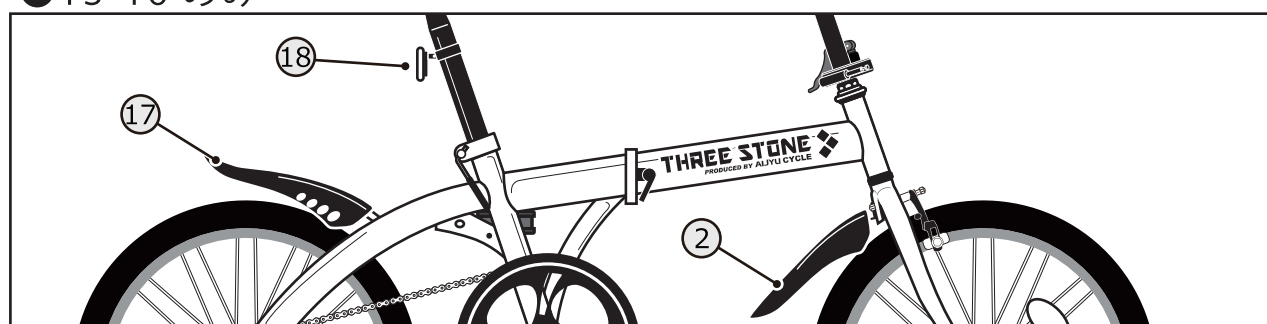
<p>■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)</p>  <p>転倒によるけがのおそれがあります。</p>	<p>■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない</p>  <p>車輪に巻き込まれて転倒によるけがのおそれがあります。</p>
---	---

各部のなまえ

※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。



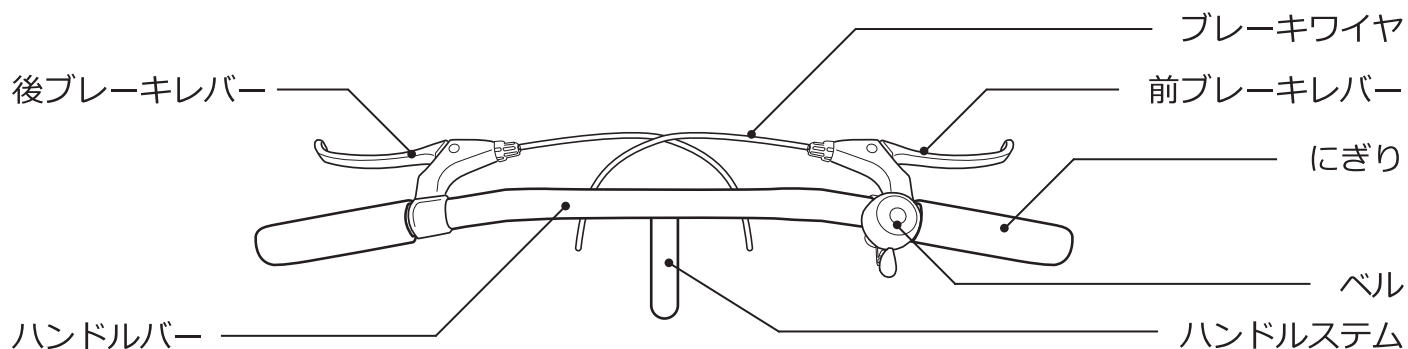
●TS-16のみ



No	名称	No	名称
①	ハンドルポスト	⑫	ギヤクランク
②	前どろよけ	⑬	ペダル
③	前ブレーキ	⑭	サドル
④	前フック	⑮	シートポスト
⑤	スポークリフレクタ	⑯	サドル固定レバー
⑥	ハブ	⑰	後どろよけ
⑦	リム	⑱	リアリフレクタ
⑧	タイヤバルブ	⑲	後ブレーキ (裏側)
⑨	チェーン	⑳	スポーク
⑩	折りたたみレバー	㉑	タイヤ
⑪	チェーンガード	㉒	1本スタンド

各部のなまえ

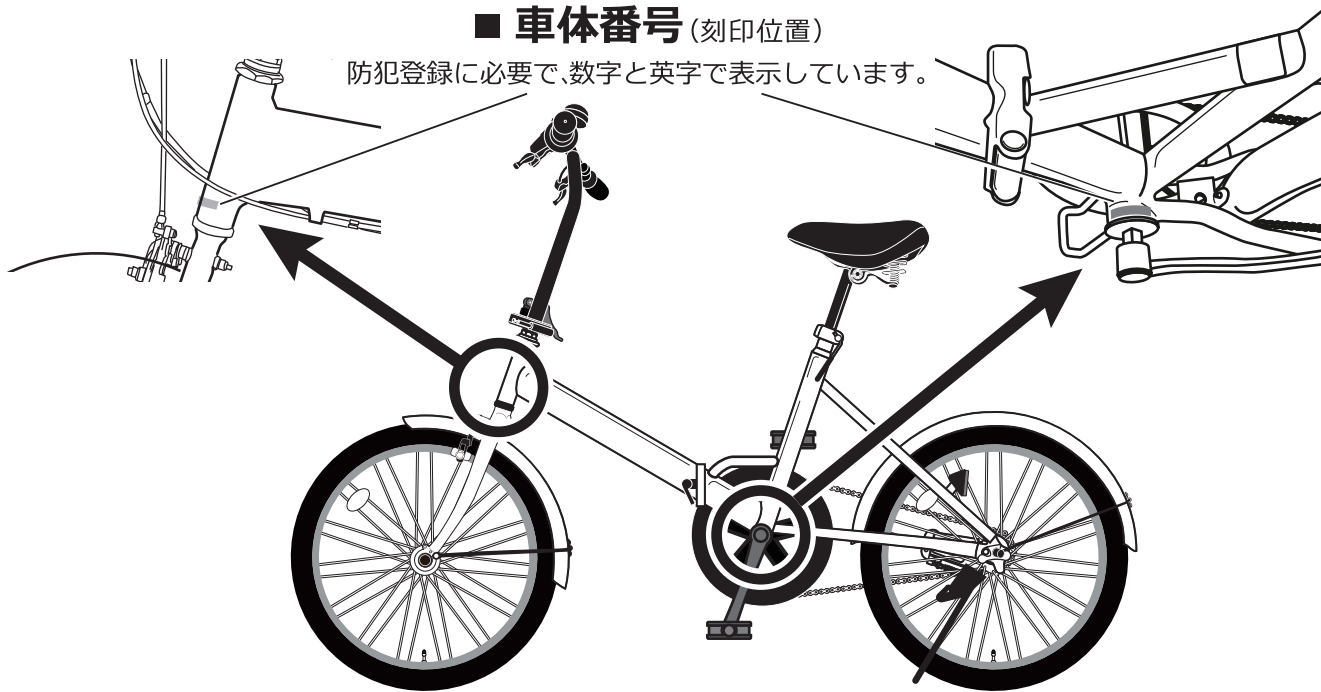
※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。



■ **車体番号位置** ハンドルポスト下またはボトムケースどちらかに車体番号が刻印されています。

■ 車体番号 (刻印位置)

防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。



乗る前の準備 (1) 組立手順

1. 車両本体 (車体部) を組立てる

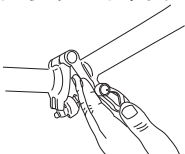
警告

■箱から自転車を出す際には、大人の方が二人で作業をする



落下させたり、破損・変形をするおそれがあります。

■メインフレームのジョイント部分を持って開閉しない



指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

■折りたたみレバーで確実にフレームを固定して走行する



開いたままだと転倒によるけがのおそれがあります。

お願い

ダンボール箱は、初期不良対応や万が一修理を依頼するのに備えて、最低一週間は捨てないでください。
※ダンボールを捨ててしまった場合、初期不良の場合でも配送用のダンボールは有料になります。

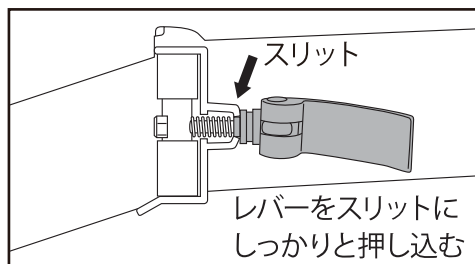
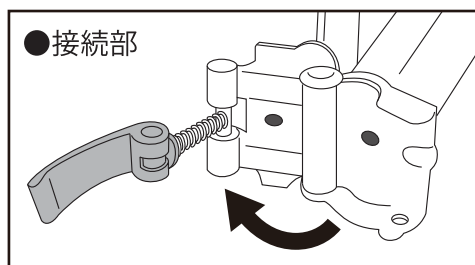
フレームの組立て

先に、自転車についている緩衝材や、結束バンドなどはずしてください。

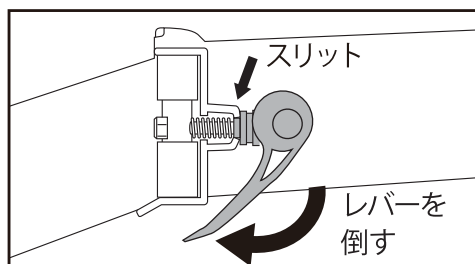
- ① 二つ折りになっている自転車を開き、接続部をしっかりと合わせて、仮固定をしてください。
(指などを挟まないようにご注意ください)

折りたたみヒンジ部が固くて動きにくい場合は、
潤滑剤をスプレーしてください。※ご使用始めは、
折りたたみ部が馴染むまで固い場合があります。

- ② 折りたたみレバーを回して、右図のように、反対側の台座のスリット部分にしっかりと乗るように押し込んで下さい。

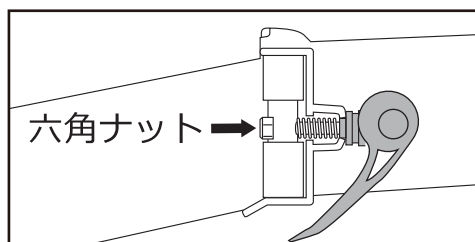


- ③ 折りたたみレバーを手前に押し倒します。
※最後に、フレームがしっかりと固定されているか確認して下さい。



確認

レバーを倒した時、レバーが緩い又はきつい場合、
レバー稼動部根元の六角ナットを締める・緩めることで調整することが出来ます。



乗る前の準備 (2) 組立手順

2. ハンドルを組み立てる



警告

■ ハンドルのがたつきを確認せずに乗らない



走行中、ハンドルが折れ曲がり、転倒によるけがのおそれがあります。

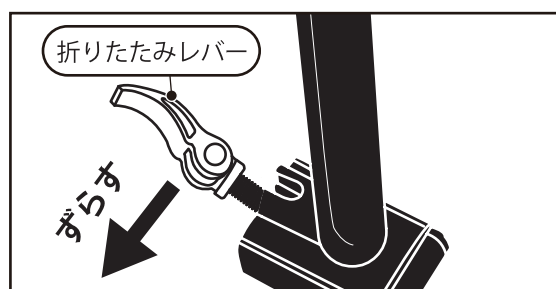
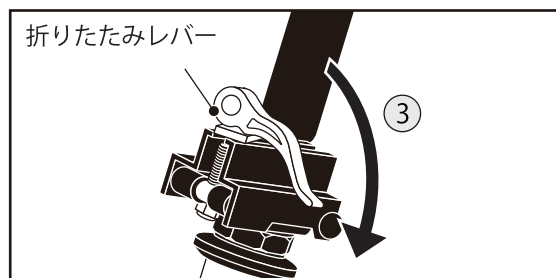
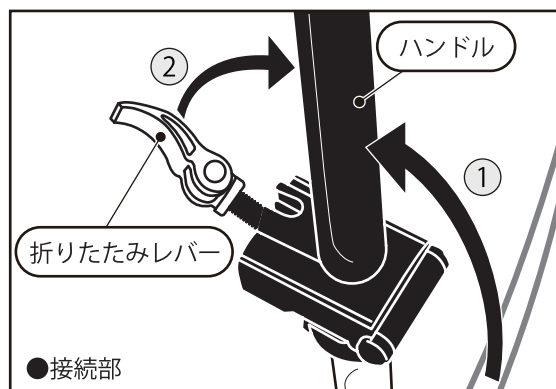
■ ハンドルポストは必ず固定した状態で走行する



走行中、ハンドルがゆるみ、転倒によるけがのおそれがあります。

ハンドルの組立て

- ① ハンドル起こし接続部をしっかりと合わせて、仮固定をしてください。
(指などを挟まないように、ご注意ください)
- ② 折りたたみレバーを立ち上げ、接続部がしっかりと固定されるように奥まで差し込みます。
- ③ 折りたたみレバーが邪魔にならないように下方に回転させて、固定します。
※最後にハンドルがしっかりと固定されているか確認してください。



ハンドルを倒す際は、折りたたみレバーを開いてから、横方向にずらしてください。2重ロックになっているため、開くだけではハンドルを折りたためません。

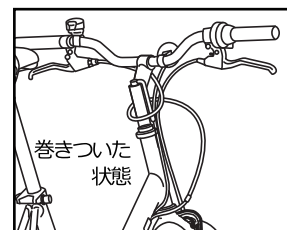


万が一前タイヤとハンドルが連動せずグラグラする場合は、一旦ハンドルを倒し、中の底面にある六角穴に六角レンチを挿して、時計方向に回して締めてください。

確認 ハンドルが取付けできない、ブレーキが効いたままになるなどの場合。

●ブレーキの配線がフレームやハンドルポストにからまっていませんか？

ブレーキ配線がフレーム下やハンドルポストに巻きつくようからまったままハンドルを取り付けてしまうと、ブレーキが効いたままになったり、ブレーキが効かなくなってしまう。(又はハンドルが取付け出来ません) そのような場合には、配線がからまないようにハンドルと前輪タイヤの向きや回転を調整して適切に取りつけてください。



●前輪タイヤの前後が逆、もしくは360度回転していませんか？

前ブレーキの位置を基準にして前輪タイヤの前後が逆、もしくは一回転していないか、確認してください。確認の上、適切な方向に直して取付けなおしてください。

乗る前の準備 (3) 組立手順

3. 左右ペダルの取り付けをする

警告

■ペダルのネジを傾げて締めない



ネジがつぶれる、破損してペダルが脱落してしまいます。

■ペダルの取り付けが左右間違いないか確認する



逆に取り付けようとする、ネジが入らない、ネジがつぶれるなどにより取り付けができなくなります。

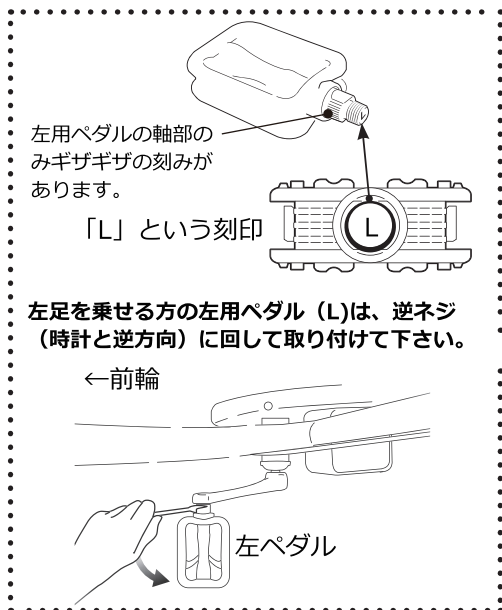
ペダルの取付け

※ペダルの取付けは、初めてお乗りになる場合の時だけの作業です。一度組立てをされた車体については、必要がありません。

ペダルには、右用 (R)、左用 (L) がありますのでご注意ください。

最初は工具を使わずに手で締められるところまで締め、その後にスパナで本締めしてください。

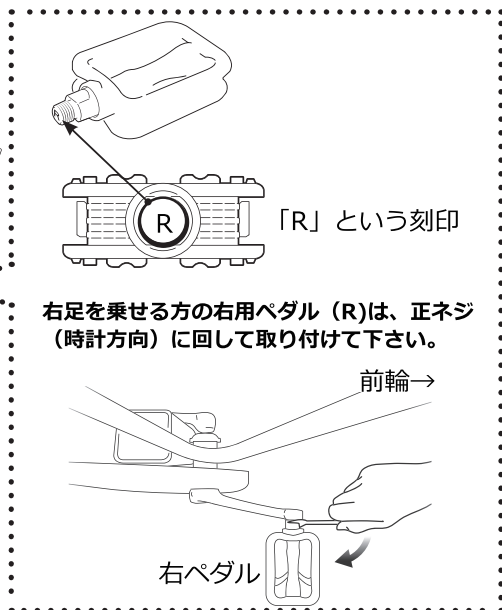
左用



確認

左ペダル 反時計回しに締める

右用



右ペダル 時計回しに締める

乗る前の準備（４） 組立手順

4. サドルの取り付けをする

サドルの高さ調整



シートポストの引き上げ限界線以上に引き上げないでください。取付けが不安定になり大変危険です。

- ① サドル固定レバーを約2～3回ゆるめます。（図1）
※注意：サドル固定レバーを十分にゆるめずに高さ調整を行うとシートポストを傷つけることがあります。
- ② サドルを上下に動かして高さ調整し、サドルを持ってサドル固定レバーを締めつけます。
- ③ サドルを上下左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。
- ④ 締め付け後、サドル固定レバーが下図（図3）の範囲内の位置になるように収納してください。

図1

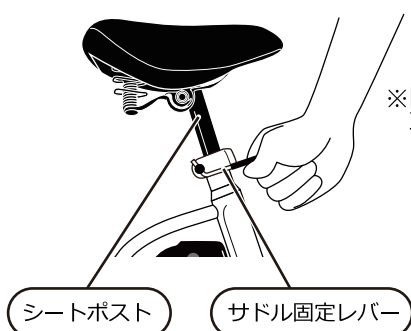


図2

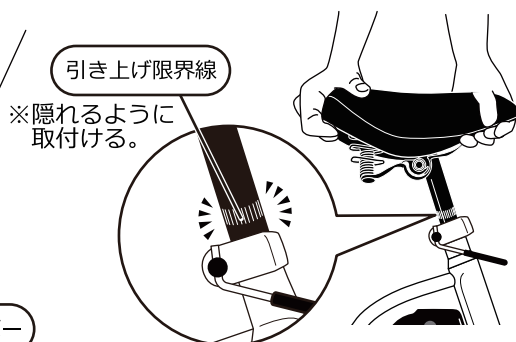
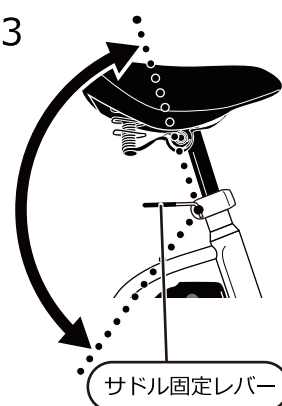
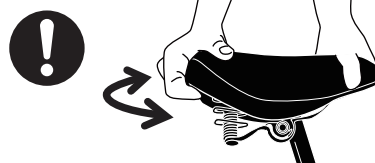


図3



- 調整後は必ずがたつきやずれがないか点検をする。

シートポストが折れたり、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。



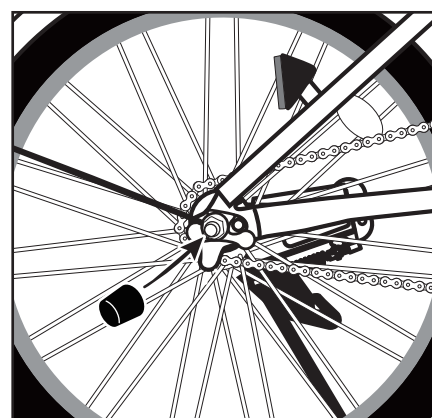
5. 車輪ハブキャップを取り付ける。

付属部品：ハブキャップ × 4



※車種により、キャップ形状が違う場合があります。

- ① 車輪中心部のナットに黒色の付属のキャップを取り付けます。
外れにくいようにするため、取り付けがきついですが、難しい場合は成人の男性の方などをお願いをして取り付けてください。
前輪・後輪の左右中心にお取付け下さい。



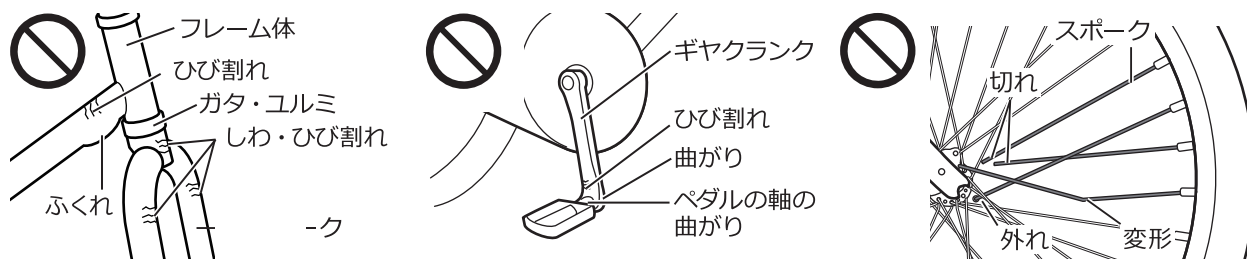
一例：後輪軸ナットにキャップをはめる。（同じ用に他の三箇所も取り付けてください）

乗る前の点検（1）

安全にご乗車いただくため、乗るまえにつきの点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

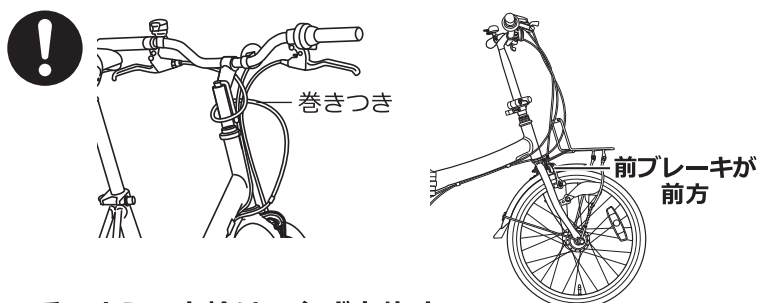
警告

■各部にガタやユルミおよび、変形・ひび割れ等があるときは乗らない



- ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- 前ホークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わった後は、前ホークに変形やひび割れなどの異常がないか点検してください。
- スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。
- ハンドルを締め付けてもガタ・ユルミがあるときは、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検をしてください。

■前車輪の方向およびブレーキワイヤが、ハンドルステムやフレームに巻きついていないかを確認する



ブレーキの効きすぎまたは、効かなくなり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■乗るまえの点検は、必ず実施する

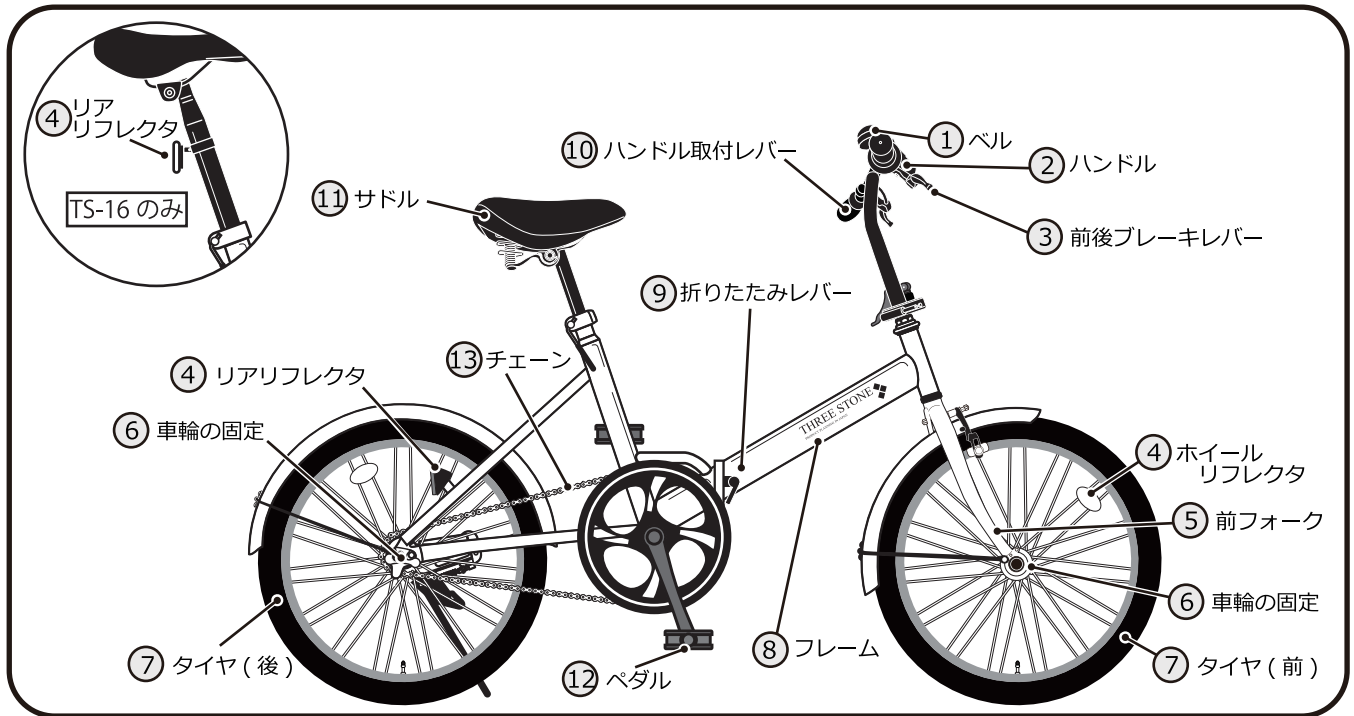
- 事故や転倒によるけがのおそれがあります。
- 前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。
- ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検してください。
- 前後車輪が、確実に固定されているか点検してください。
- 前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。

■点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは乗らない

- 事故や転倒によるけがのおそれがあります。
- 異常があったときは販売店にご相談ください。

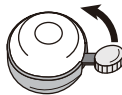
乗る前の点検（2）

安全に乗車していただくため、乗車前に下記の点検を実施する習慣を身につけましょう。



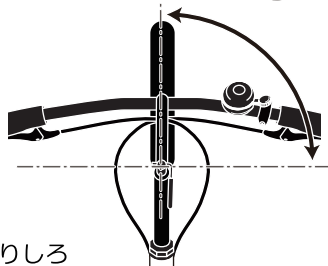
① ベルの鳴り具合

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検します。



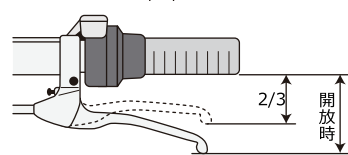
② ハンドルのがたつき

ハンドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検しましょう。またハンドルが前タイヤに対し直角（90°）になっているか点検します。



③ 前・後ブレーキレバーの握りしろ

ブレーキレバーが解放時の約2/3の位置でブレーキが効きはじめることを点検します。



④ ホイールリフレクタ・リアリフレクタの汚れ・損傷

汚れや損傷がないか点検します。汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。

⑤ 前フォークの変形・損傷

変形や損傷がないか点検します。変形・損傷している場合は乗車をせずに交換してください。

⑥ 前後車輪の固定状態

タイヤをゆすり、がたつきがないか点検します。

⑦ 前後タイヤの空気圧・摩耗・損傷

自転車に乗車したとき、タイヤの接地部の長さが約12cmになれば適正です。また、磨耗していないかタイヤにくぎなどがささっていないか点検します。空気圧が減少しているとアシスト走行距離に大きく影響します。

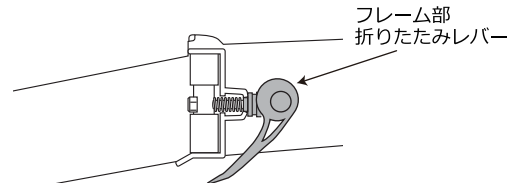
標準空気圧
タイヤ側面に記載

⑧ フレームの変形・損傷

変形や損傷がないか点検します。変形・損傷している場合は乗車をせずに交換してください。

⑨ 折りたたみレバーのがたつき・位置確認

折りたたみレバー部のがたつきが無いを確認します。フレーム部の折りたたみレバーが確実に押し込まれており、レバーがたたまれているか確認します。



⑩ ハンドルのがたつき

ハンドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検します。ハンドルと前輪が直角に取付けられているか確認します。ハンドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検します。

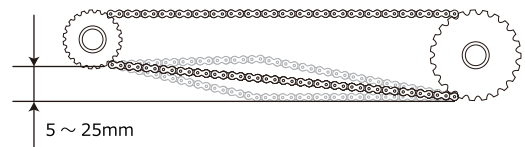
⑪ サドルのがたつき

⑫ ペダルのがたつき

ペダルをゆすり、がたつきがないか点検します。

⑬ チェーンの張り具合

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mmあれば適正です。



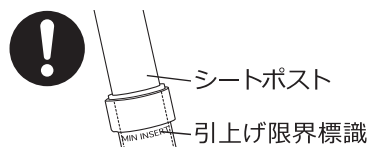
点検で異常があった場合や転倒して異常があった場合は、乗車せずお買い上げ販売店にご相談ください。

乗る前の調整 (1)

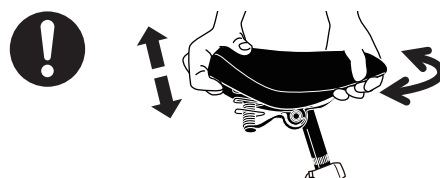
■ サドルの調整

⚠ 警告

■ 引き上げ限界標識が隠れる領域で調整する



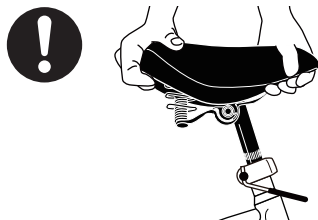
■ 調整後は必ずがたつきやずれがないか点検をする



シートポストが折れたり、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠ 注意

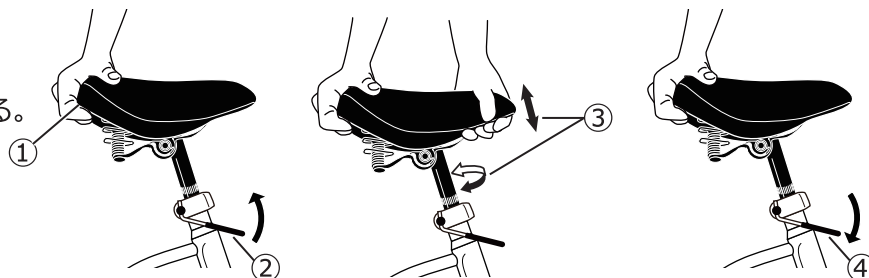
■ サドル固定レバーを緩めるときは、サドルを支え持ちながら緩める



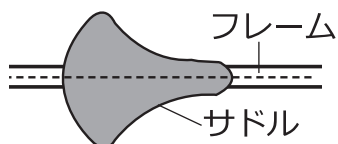
サドルが落下し、手や指をはさむおそれがあります。

● 高さとの調整

- ① サドルを支え持つ。
- ② サドル固定レバーをゆるめる。
- ③ サドルの高さと向きを調整する。
- ④ サドル固定レバーを締める。



● サドルの正しい方向と角度



フレームと平行に合わせる。



サドルの上面と地面を平行にする。

お願い

● 角度の調整は販売店にご相談ください。

乗る前の調整 (2)

■ブレーキの調整 (自転車整備店に依頼してください)

警告

- ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいままで走行しない
●ブレーキが効かなくなったり、効き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがの原因になります。
- ブレーキが効かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。
- ロックナットは確実に締め付ける
●ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがの原因になります。
- 音鳴りがしたり、ブレーキの効きが強すぎる場合は使用しない
●すぐに販売店で点検を受けてください。

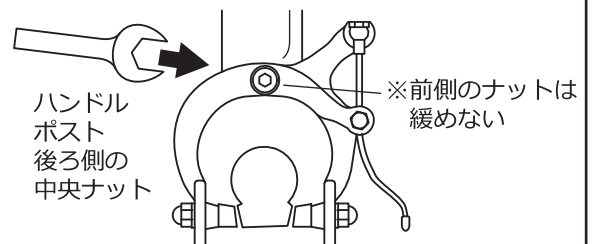
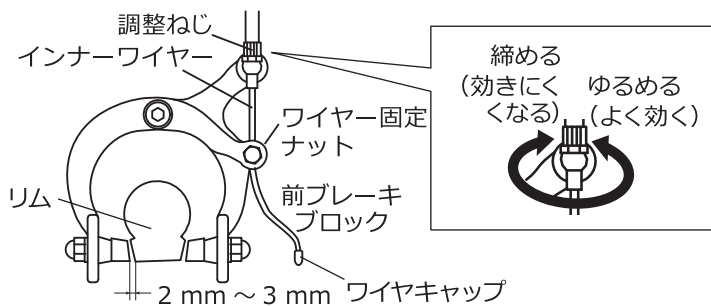
注意

- 走行直後は、ブレーキ部に手を触れない
●ブレーキ部が高温になり、やけどの原因になります。
- 接触禁止

※下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。一般の方では調整が難しい部分が御座います。そのため専門知識の無い方は、自転車整備店にご依頼ください。

●前ブレーキ (キャリパーブレーキ)

- ① ブレーキレバーを強く握ってブレーキインナーワイヤーの初期伸ばしをします。ブレーキレバーの遊び幅が多い場合は調整ネジを回してインナーワイヤーのたるみを調整してください。微調整で改善しない場合はワイヤー固定ナットを緩め、ワイヤーの固定位置を変えて、ワイヤーの張りを調整してください。
- ② ブレーキが片ぎきの場合はキャリパー本体を固定している支点がズレていますのでハンドルポスト後ろ側の中央部ナットを緩め、左右に動かしてブレーキパッドとトリムの隙間が左右均等になるように調整をしてください。
【注意】前側の合いナットは緩めないで下さい。

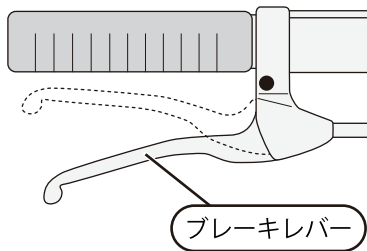


乗る前の調整 (3)

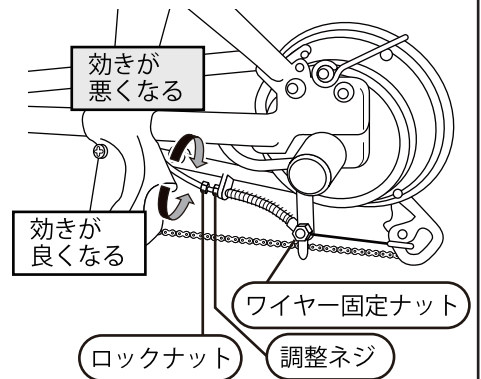
※下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。一般の方では調整が難しい部分が御座います。そのため専門知識の無い方は、自転車整備店にご依頼ください。

●後ブレーキ (バンドブレーキ)

左ブレーキレバーを3回ほど強く握ってワイヤーの初期伸ばしをします。



ロックナットを回してブレーキレバーの遊びが1/3になるようにします。後輪の回転が重い場合はワイヤー固定ナットを緩めてワイヤーの調整をします。

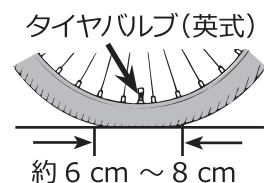


乗る前の調整（４）

■ 空気圧の調整（前後のタイヤ）

● 適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約 6 cm ～ 8 cm 程度が、適正です。
圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。
300 kPa ～ 450 kPa {3.0 kgf/cm² ～ 4.5 kgf/cm²} が適正です。
○標準空気圧は、タイヤの側面に記載されています。



ご注意

- 空気圧が少ないとパンクや、タイヤ、リムを損傷させる原因になります。

お知らせ

- 空気圧は自然に減ります。
- タイヤバルブの型式は、英式です。

● 空気の入れ方

自転車用のポンプを使って空気を入れます。

■ タイヤについて

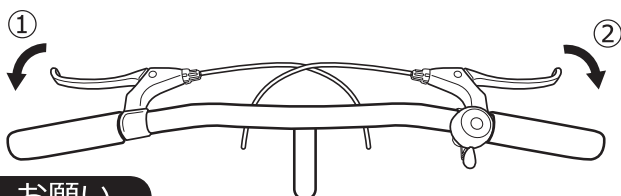
お願い

! お届け時は、タイヤとチューブの保護・傷み防止のため、空気が少なくなっている場合があります。
必ず適正な空気を入れてからお乗りください。

- ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- ガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐふき取ってください。
- 走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検してください。パンクやタイヤ・リムを損傷させる原因になります。
- タイヤの空気圧は 300kPa {3.0kgf/cm²} 未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。

■ ブレーキのかけかた

- ① 後ブレーキを先にかけてから
- ② 前ブレーキをかける。



お願い

- 急な坂道のときは、降りて押してください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がすぎないように走行してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

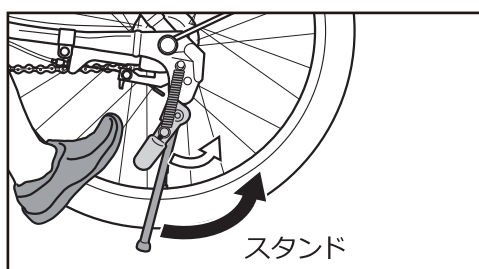
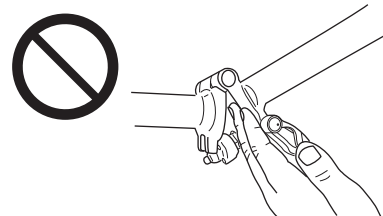
! 警告

- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

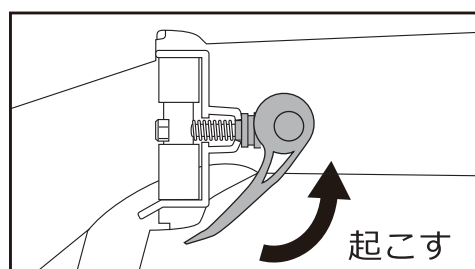
折りたたみ手順

警告

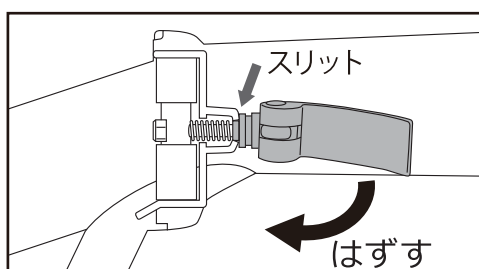
■メインパイプのジョイント部分を持って開閉しない
指や手をはさんでけがをするおそれがあります。



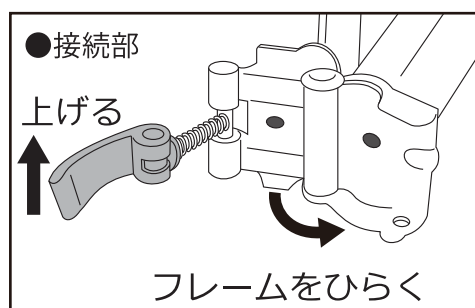
① スタンドをあげます。



② 折りたたみレバーを起こします。



③ 折りたたみレバーをスリットからはずします。



④ レバーは2段ロック式になっていますので、レバーを上にはげないと開きません。そのためレバーをフレームに対して約90度ほど開いてから、レバーを上げて、フレームを開いてください。

フレームが開きづらい場合は、折りたたみヒンジ部に潤滑剤をスプレーしてください。
※ご使用始めは、折りたたみ部が馴染むまで固い場合があります。

確認

必要に応じて、前輪と後輪をヒモなどでしばると、収納しやすくなります。
ハンドルを取り外すと、ブレーキや変速機の効き具合が悪くなる場合がありますので、頻繁に外さないようにしてください。

お手入れ／注油について（1）

お手入れ

- 日常のお手入れは、
 - 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
 - がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。
- 汚れがひどいとき
水洗いし乾燥させた後、各部に注油してください。
注油禁止場所には注油しないでください。
- 塗装部（フレーム体など）
乾いた布でよく磨き、自動車用のワックスをかけ、乾いた布でふき取ってください。
- めっき部（ハブなど）
乾いた布でよくふいたあと、「さび止め油」でふき、余分な油をふき取ってください。
- 樹脂部（ペダルなど）
乾いた布でほこりをとってください。
- 湿気の多い所や海岸沿いは、
さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。



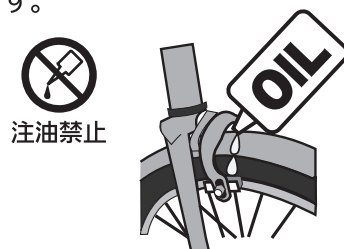
お願い

- シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。
- サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、すべります）

注油について

警告

- リムやブレーキブロック（ゴム部）には、油をつけない
ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。



お手入れ／注油について（2）

注油場所と注油禁止場所



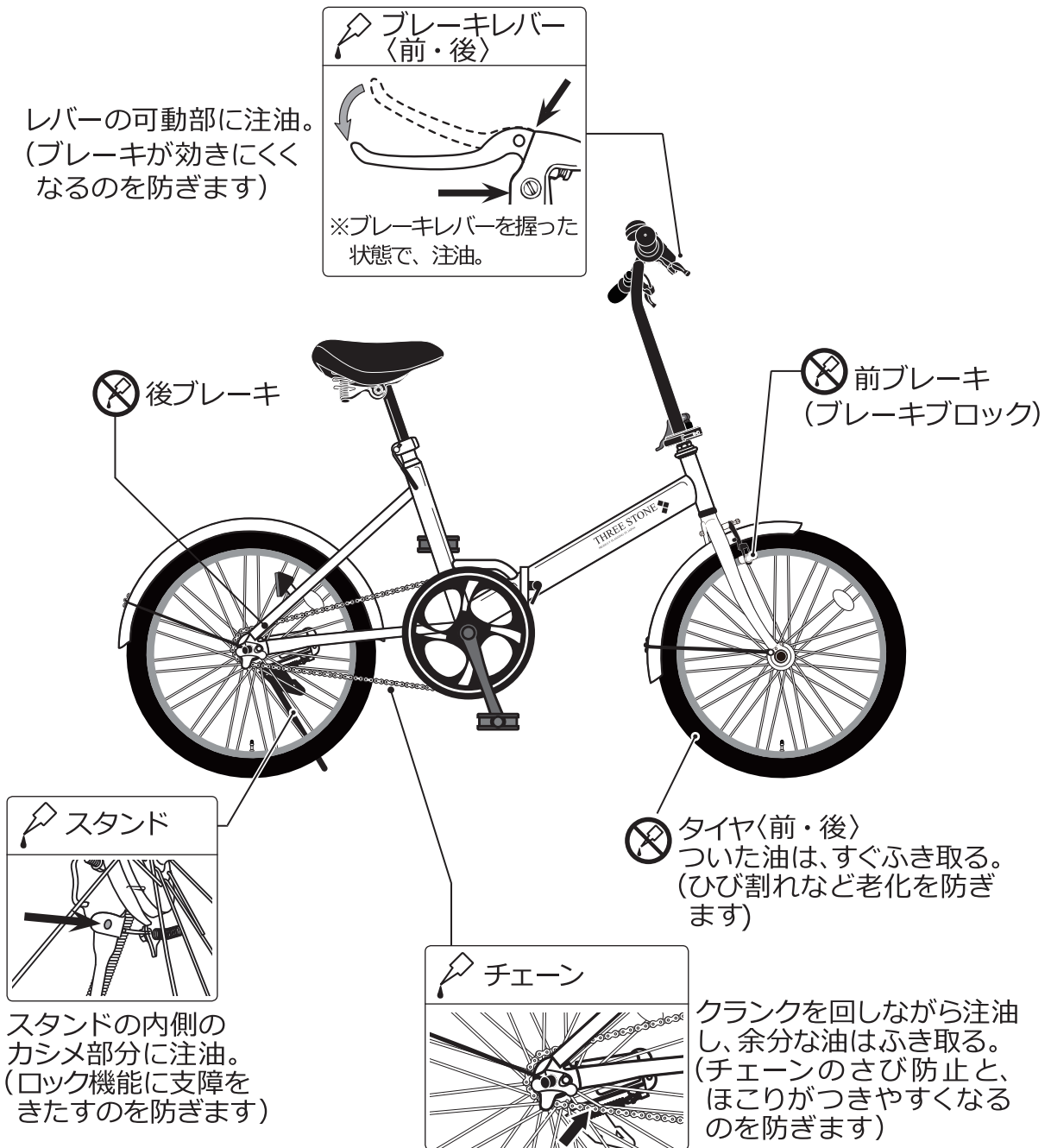
このマークは、注油場所を示します。



このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

- 油の種類は、必ず自転車用油を使用してください。（食用油などは、硬化するおそれがあります）
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。



定期点検

定期点検

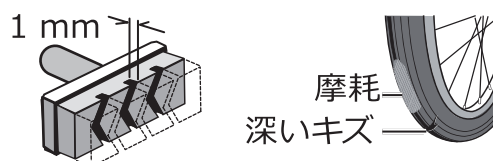
警告

■ 定期点検は、必ず実施する

⚠ 異常や故障の発見がおくれ事故の原因になります。

■ 部品の交換は、次の基準で実施する

- ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても2年に1回は、交換する。
- タイヤは、接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換する。
- ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mmになる前に交換する。
- ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。



ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるけがのおそれがあります。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。

いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回(2ヵ月目)点検と、6ヵ月毎の定期点検の実施をお願いします。

● 初回(2ヵ月目)の点検と整備

お買い求め2ヵ月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。

必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくはそれと同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

● 2回目以降(6ヵ月毎)の点検と整備

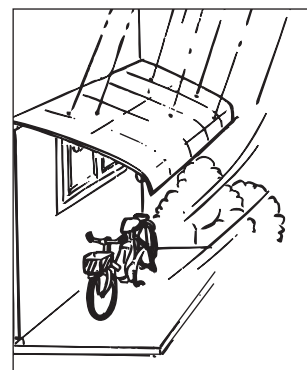
安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

■ 保管場所は、

雨がかかりにくい場所に保管してください。

雨が掛かるところでは、市販の「サイクルカバー」のご使用をおすすめします。

※長期保管後、再使用される場合は、販売店で点検・調整のうえ、ご使用ください。



■ 廃棄するときは、

自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

※梱包ダンボール・梱包材につきましても、地域のルールに従って捨ててください。

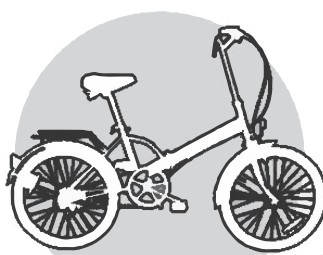
防犯登録について

防犯登録をご希望の方はお近くの「防犯登録加盟店」にて手続きができます。
(お住まいの近くの自転車販売店、ホームセンターなど)

自転車を利用するためには、法律「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律第12条第3項」により「自転車防犯登録」が義務付けられています。「自転車防犯登録」を行っていないと、盗難にあった際に盗難被害届けを出すことができず諦めるしかないということがありますので、早めに「自転車防犯登録」を行うことをお勧めします。

防犯登録を受ける際、必要となる物

販売証明書



自転車本体



氏名・住所などが確認できるもの



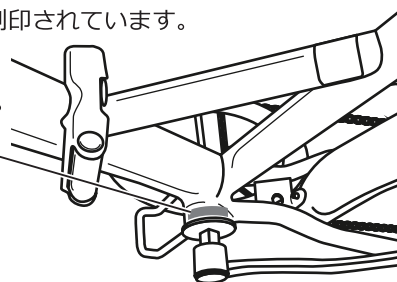
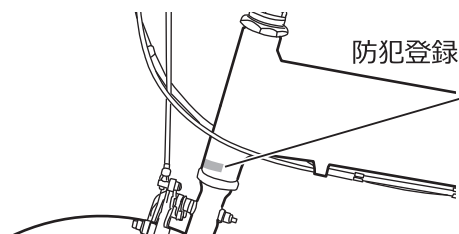
印鑑

- ネットショップでのご購入の場合は、ご購入店舗にご連絡いただき「販売証明書」発行のご依頼をしてください。商品には「販売証明書」は付属していません。
- フレーム No. の刻印の位置は下記の車体番号の位置をご参照ください。
- メーカー、及び販売店ではフレーム No.(車体番号)の管理はしておりません。必ずご自身で確認の上、大切に保管してください。

その他、防犯登録についてご不明な点がございましたら最寄の各都道府県の防犯登録協会自転車商協同組にお尋ねください。

■ 車体番号位置 ハンドルポスト下またはボトムケースどちらかに車体番号が刻印されています。

■ 車体番号 (刻印位置)
防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。



こんな時は・・・

次のような症状が出た場合は各項目を点検して見てください。

症 状	チェック項目	参考ページ
ブレーキのききが悪い。異音。ブレーキパッドがリムに接触している。車輪の回転が重い。	ハンドル組立時にブレーキワイヤーが絡まった状態になっていないかご確認ください。 ブレーキを調整をしてみてください。	P.11 P.17-18
ペダル付近から異音がする。	ペダル取付部を増し締めしてください。	P.12
車輪からカタカタ音がする。	ブレーキワイヤーがスポークに当たっていないか確認してください。当たっていれば、ワイヤーを手で曲げて、当たらないように調整してください。	—
ハンドルがたためない。	ハンドルの折りたたみレバーをずらしながらたたんでいるか確認してください。	P.11
ハンドルと前タイヤが連動しない。	一旦ハンドルを倒し、中の底面にある六角穴に六角レンチを挿して、時計方向に回して締めてください。	P.11
ペダルが取付できない。	左ペダルは逆ネジになりますのでネジ山の向きをご確認ください。	P.12
フレームジョイント部が固定できない。	固定レバーの反対にあるナットで調整をし締め付けの強さを調整してみてください。	P.10
車体番号の記載位置がわからない。	ハンドルポスト下部の前面か、左側クランク根元に刻印がされています。	P.9
開封時に黒いプラスチックの部品が割れている。	運送時破損防止の保護材ですので、本体にキズ等なければ破棄してください。	—
付属のキャップの取付場所がわからない。	ハブナットのキャップになりますので車輪軸のナットにつけてください。	P.13
メインフレームが開かない。又は閉じない。	開かない場合は、折りたたみレバーを上げているか確認してください。 ご使用始めは、折りたたみ部が固い場合がありますので、ヒンジ部に潤滑剤をスプレーしてください。	P.21
ライトが点かない。	電池の向きが正しいか確認して下さい。 不具合と思われる場合は、販売店にご連絡ください。保証範囲で交換いたします。	—
ワイヤーロック錠のカギがかからない。開錠しない。	ご使用初めは、固い場合が御座います。 手でカギを左右に揺らすなどしてカギを回してください。	—

LEDライトの取付け ※サービス品のため、仕様・色などが異なる場合があります。

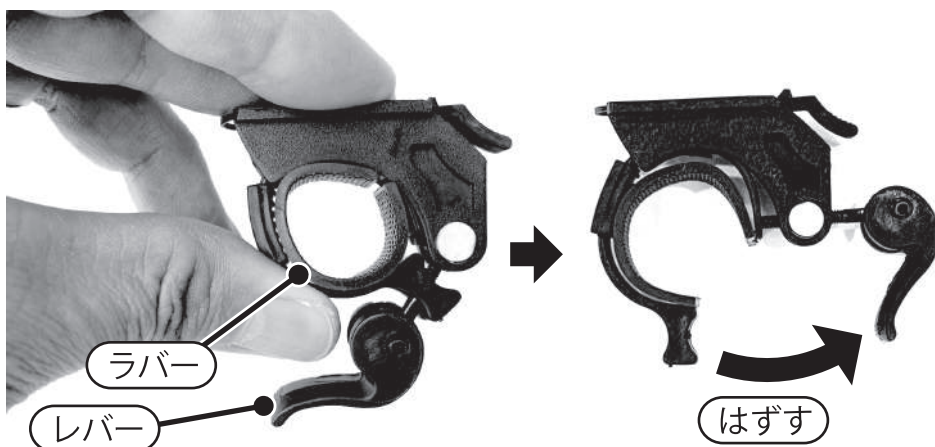
確認 最初にライト本体に、乾電池を入れておいてください。

フロントLEDライト
取付けは、右記のパーツを使用します。



1. 取付け前の準備

取付けパーツのラバーを外してください。また、レバーを反時計回りに回すと、レバーが緩んできますので、ある程度緩めた状態で、レバーをはずしてください。



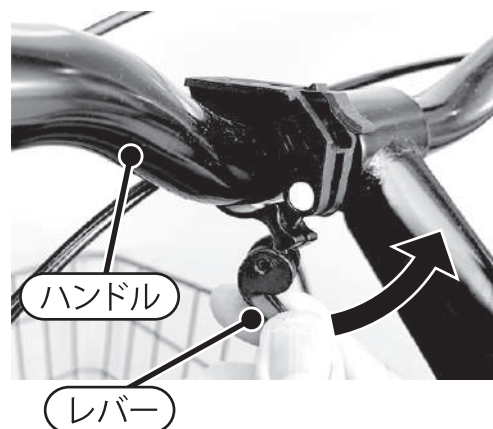
2. ハンドルへの取付け

ハンドルに、ライト取付けパーツを取付けます。ハンドル中央よりに取付けてください。(左右どちら側でも問題ありません)。

取付けをしたら、レバーを時計回りに回してください。その際、レバーを閉じたとき、ハンドルに固定できる程度になるように調整してください。

最後にレバーを閉じて、ハンドルに固定してください。

※もしどうしても、固定が緩い場合は、外したラバーを取付け部に戻して、再度取付けをしてください。



3. LEDライト本体の取付け

取付けパーツ上部のスリットにLEDライトの溝を合わせて、前方からスライドさせて取付けてください。



取付けた状態

ワイヤーロック錠について

※サービス品のため、仕様・色などが異なる場合があります。

ワイヤーロック錠のパーツは、右記の構成になっています。

●キー



●ワイヤーロック錠本体



●取付けパーツ



取付けパーツは、サドルポストに取付け、ロック錠を使用しない時に、保持するものです。

1. 取付けパーツの準備

取付けパーツの2箇所のネジを緩めます。サドルを車体から外して、サドルポストの下から、取付けパーツを差し込みます。※赤いボタンが上にくるように差し込んでください。

また、ロック錠を取付けるため、サドルぎりぎりまで、取付けパーツの位置を上げないでください。

位置が決まったら、ネジを閉めて固定してください。



ロック錠を取付けるための、スペースを確保して、取付けパーツの位置を決めてください。

●ワイヤーロック錠の取付け、取り外し

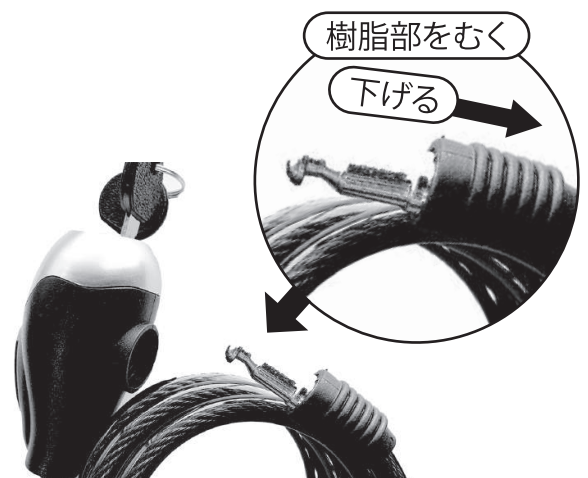
ロック錠を取付ける場合は、取付けパーツの上部から、溝に合わせてスライドさせて取付けてください。

ロック錠を外すときは、赤いボタンを押しながら、上にスライドさせてロック錠を外してください。



●ロック錠先端が、穴に入りにくい場合の対処法

金属部先端が穴に入りにくい場合、樹脂部を後ろに下げてください。



折りたたみカゴについて【EB-16のみ】

※サービス品のため、仕様・色などが異なる場合があります。

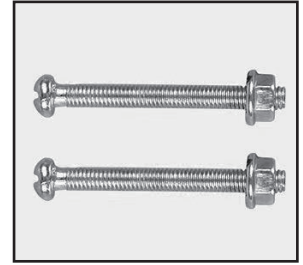
1. 折りたたまれているカゴを開いてください。
2. フック部に「キズ防止用ビニール」をかぶせてください。
3. 自転車のハンドルにカゴを掛けてください。
4. フック部にあるネジ穴に「固定用ボルト」を通してください。その際に「キズ防止用ビニール小」も同時に通してください。
5. ネジ先端に「ナット」を取付けて固定してください。

【注意】ナットはゆるみ防止のため「ロックナット」になっています。そのため指で固定してもネジが入りません。必ずスパナでナットを固定しながらボルトを締めてください。

6. カゴ側面にあるタテの長穴にマジックテープを通し、サドルポストと一緒に巻いて固定してください。

※マジックテープが付属していない場合もあります。

固定用ボルト&ナット×2セット



キズ防止用ビニール大×2本



キズ防止用ビニール小×2本



マジックテープ×1枚
※付属していない場合もあります。



購入情報メモ



故障や万が一の盗難などがあった場合、必要な情報になりますので、ご購入後は必ず記載してください。

■ご注文情報

項目	内容
ご購入店舗	
ご購入年月日	年 月 日
ご注文様お名前	
ご利用者様お名前	
ご注文番号	

■自転車の情報

項目	内容
製品名	
製品型番	
カラー	
車体番号 ※重要な情報です	

■メンテナンス履歴

年 月 日	内容
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	

AIJYU
CYCLE

修理・取扱いなどは、お買い上げの販売店にてご相談頂けますよう、お願い致します。

株式会社アイジユ